

看護職と学生のための大学図書館サービス

平 紀子

TAIRA Noriko (Sapporo City University), Forward-looking Efforts on College Library Services for Nurses and Nursing School Students. *Nursing and Information* 2014;21: 43-48

キーワード：大学図書館，医療従事者，看護教育，初年次教育，導入教育

【抄録】

近年，看護職には，最新の技術や知識を身につけるだけでなく，豊かな人間性と確実な倫理的判断力が求められる，チーム医療の一員として他の医療従事者と連携をとり，保健・医療・福祉領域において幅広くその役割を果たすことが期待されている。この変化に伴い，看護系大学や大学図書館に求められる機能・役割も拡大している。看護師養成教育には情報の探索，情報の評価，情報発信など，図書館がもつ情報機能が不可欠である。本稿では，図書館の取組みとして看護学部学生の初年次教育への関わり，また，臨床現場の看護師に対する卒後教育への関わりなど，筆者が勤務する札幌市立大学のスタートアップ演習，前職の北海道医療大学において開講した専門職卒後教育プログラムの事例を通じ，看護師教育支援に向けた大学図書館の役割について考察する。

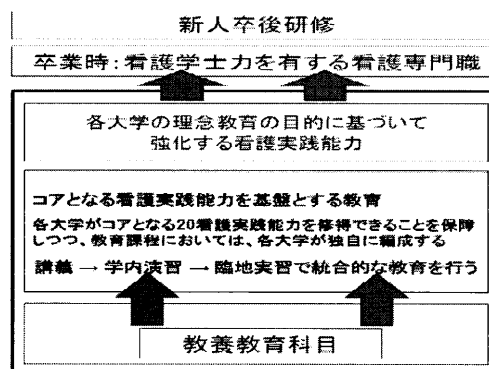
はじめに

高齢化社会の到来に伴い医療ニーズが急速に拡大し，より効果的・効率的な医療の提供が求められており，国は医療提供体制の見直しを進めている。その中で看護職に求められる役割は拡大しており，看護系大学においては専門的な知識・技術の他，倫理観を培うことを目的とする教養教育が重要視され，看護大学モデル・コア・カリキュラムにかかる研究が行われている。看護学部をもつ多くの医療系大学図書館では新入生ガイダンスを行っているが，看護師の教育支援に向けた積極的なアプローチは緒についたばかりである。本稿では，まず看護職に求められる役割と初年次教育との関わりについて検討し，次に図書館が関わった看護職教育の事例として，札幌市立大学のスタートアップ演習，北海道医療大学の「地域格差のない医療情報提供のための薬剤師・看護師教育プログラム」の内容を紹介する。さらに図書館の教育的役割について考察する。

I. 看護職に求められる役割の拡大と教育

看護師の資格は，保健師助産師看護師法第5条に定められている。免許区分には，「看護師」，「准看護師」があり，看護師・准看護師・助産師・保健師・認定看護師・専門看護師・特定看護師の総称を看護職としている。また，養成教育が大学・看護短大・看護専門学校・看護高等学校と幅広く，活躍の場が多岐に渡ることが特徴である。

高齢化社会を迎えたわが国において，看護職に向けられた期待の大きさはいうまでもない。野嶋の「看護系大学におけるモデル・コア・カリキュラム導入に関する調査研究報告書2013」¹⁾の第2章「学士課程においてコアとなる看護実践能力を基盤とする教育」の中には，ヒューマンケアの基本に関する実践能力の他，5つの必要とする能力が位置づけられている。この中では，人々の尊厳と権利を擁護する能力があり，培うために教養教育科目が基盤となっている。その教育内容として，人間の捉え方，健康の捉え方，ライフサイクルと健康，社会と健康，文化と健康，基本的人権の尊重，看護実践に関わる倫理の原則，患者の権利，権利擁護，プライバシーへの配慮，個人情報保護，看護職の倫理規定，守秘義務等，人間に関わる幅広い分野を学ぶことが求められている。



看護学士課程におけるコアとなる看護実践能力を基盤とする教育の位置づけ

また、18歳人口の減少に伴い大学全入時代となり、基礎学力不足の学生や目的意識が希薄な学生が多く入学し学力の低下が大きな問題となっている。多くの大学では初年次教育を導入し、自学自習の動機付けを行っている。そこで初年次教育と図書館の関わりについて考えてみる。

II. 図書館と初年次教育について

平成25年の文部科学省の大学における教育内容等の改革状況²⁾によると、初年次教育を実施する大学数は88%であり、主な取組の内容は、「レポート・論文の書き方等文章作法関連」89%、「プレゼンテーションやディスカッション等の口頭発表の技法関連」79%、「学問や大学教育全般に対する動機・方向付け関連」76%、「将来の職業生活や進路選択に対する動機・方向付け関連」74%となっている。また、文部科学省では以下のように初年次教育の項目の中にコミュニケーションスキル、倫理観を位置づけている。

1. 知識・理解（文化、社会、自然等）
2. 汎用的技能（コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等）
3. 態度・志向性（自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等）
4. 総合的な学習経験と創造的思考力

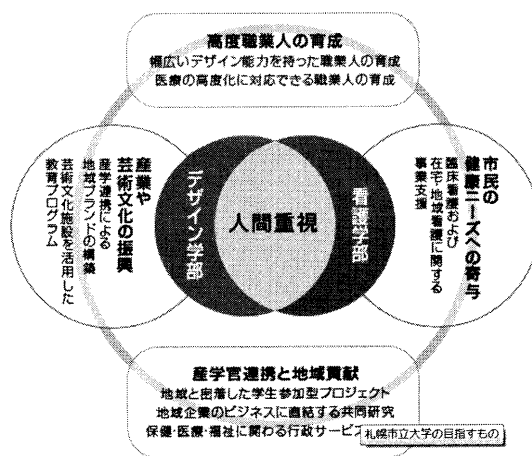
初年次教育・導入教育の研究を進める山田は日米の大学における学生の能力変化の中でコミュニケーション力、学問、社会問題への関心など、全ての項目において評価が低い日本の大学では、図書館を活用した学習支援と情報スキルの習得が有効であると述べている^{3) 4)}。また、汎用的能力を育成するために効果が認められているアクティブ・ラーニング法の導入促進を評価している⁵⁾。

久司は「看護専門学校生の多様化と初年次教育」の中で、学力低下問題は大学生にとどまらず、看護専門学校においても深刻な問題となっているため、2000年以降は初年次教育が注目されるようになったと述べている⁶⁾。前述の「看護学士課程におけるコアとなる看護実践能力を基盤とする教育の位置づけ」においても、教養教育科目が重要視されており、学生が必要とする能力を高めるために図書館が教育支援を積極的に行うことが期待されるとしている。また、現在臨床現場にいる看護師は、養成課程において情報スキルの習得が出来ていない場合が多く、生涯教育にも図書館が支援することが必要と考えられる。

III. 図書館の取り組み事例

1. 札幌市立大学におけるスタートアップ演習

公立大学法人札幌市立大学⁷⁾は2006年4月に開学し、デザイン学部、看護学部を擁する大学である。1991年、公立高専で全国初の専攻科設置となる札幌高等専門学校を前身とするデザイン学部は札幌市南区にあり、札幌市芸術の森美術館が隣接している。また、1965年創設の札幌市立高等看護学院を前身とする看護学部は札幌市中央区にあり、札幌市立病院が隣接している。両キャンパスにはデザイン・看護学部の図書館が各々設置されている。デザイン学部の図書館では、隣接する美術館との連携企画展示、看護学部の図書館においても学外者への開放を通じ地域連携事業を推進している。大学の理念は人間重視であり、教育の特徴、教育の目的は下記の図に示すとおりである。また、大学では、平成24年度文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」産官学連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成、さらに平成25年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に、デザインと看護の連携を基盤とした地域を元気にする取り組み「ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業」が採択され、今後5か年に渡り当事業への取組が行われていく。デザイン学部と看護学部の相補的連携による、地域社会のニーズに応じた高度な専門職業人の養成と、産学官連携事業などによる地域貢献への展開を目指す大学である。



【教育の理念】

人間重視を根幹とします。

デザインと看護はいずれも人間を対象とした学問である。

地域社会への貢献

市民に開かれ、市民の力になり、市民の誇りとなる大学

を目指して、地域貢献の使命を果たします。

【教育の特長】

デザインと看護の連携

学部の教員が連携・共同して教育を行うとともに、保健・医療・福祉分野を対象とするデザインなどを共同研究します。

幅広いネットワーク

市民、産業界、行政や公的機関などと連携することにより、地域課題に対応した教育・研究を行います。

【教育の目的】

高度化に対応した人材育成

デザイン・看護という高度化した専門分野に対応する職業人の育成を図ります。

【知と創造】の拠点形成

産業や芸術文化の振興、都市機能・都市景観の向上などへの貢献とともに、地域看護の充実など、市民の健康保持・増進への貢献を果たします。

札幌市立大学では学生生活や将来の職業生活への展望をもつことを目的に、スタートアップ演習を行っている。全15回のプログラムを各担当教員が学生と一体となって進めており、入学時の学生にとっては興味深いものである。このスタートアップ演習に平成25年度から図書館が参画することになった。到達目標および授業計画・内容は下記に示すとおりである。

目的:「デザインと看護の連携」をテーマに、大講義室での合同講義や小人数編成によるグループ活動を通じ、大学での学び方、資料収集の方法、レポート作成、グループ討論など、主体的に勉学・研究を進めるための基本的な知識や学習法や課題解決の手法などを習得する。また調査・分析プロジェクトを通じ、4年間の学生生活や将来の職業生活への展望を持つ。

到達目標:①主体的に勉学・研究に取り組む姿勢を持つ②他者とのコミュニケーション能力を高める③基本的な学習技術を習得する④学生生活や将来への展望を持つ

授業計画・内容:

第1回 デザインと看護の連携に向けて:大学の理念(学長)「若い力に期待する(1)」・スタートアップ演習の進め方と期待される成果・担当教員の紹介とグループ編成の発表(合同講義)／自己紹介・役割分担・グループ名の決定など(グループ活動)

第2回 デザインと看護の世界:先生方によるプレゼンテーション(合同講義)「若い力に期待する(2)」／グループ討論「デザインと看護の連携で何ができるか」(グループ活動)

第3回 調査・分析プロジェクト入門:(合同講義)「若い力に期待する(3)」／プレスト(グループ活動)

第4回 大学での学び方 その1(合同講義):大学の授業はなぜ長いのか?大学生活は貴重、大学の先生に親しもう

大学生生活の4年間をイメージする 大学生生活は重要なライフステージ/テーマ選択・調査計画の作成(グループ活動)

第5回 大学での学び方 その2(合同講義):文献・図書館の活用/レポートの書き方／調査・分析・プロジェクト活動 開始(グループ活動)

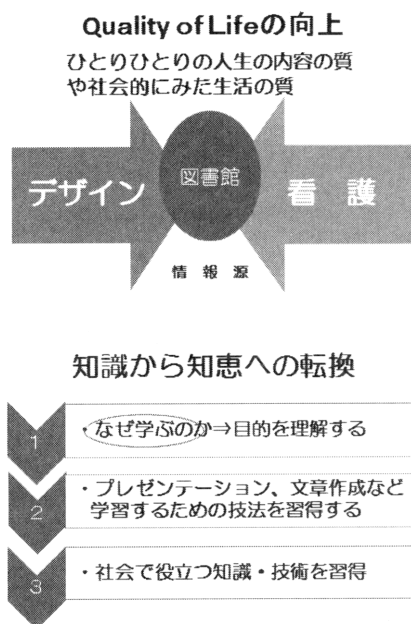
第6回～第13回 調査・分析・プロジェクト活動(グループ活動)

第14回 プロジェクト案の展示・報告会リハーサル(グループ別活動) *配布資料提出

第15回 「デザインと看護の連携」調査・分析・プロジェクト活動報告会(合同講義)

図書館は、第5回目を担当することになり、共通基礎科目のスタートアップ演習の打ち合わせの中で、担当教員より学生が図書館に興味を抱く内容に工夫していただきたいとの要請があった。その後、全体打ち合わせと懇親会が行われた。振り返ると着任して半年も経たない時期ではあったが、この場を機に大学に馴染むことができ感謝している。ひきつづき、担当する90分の中で話す内容をまとめるための検討を始めた。大学の理念・目標の「人間重視」に合致する人間をテーマとし、「図書館活用術とキャンパスライフ」、「学術情報とは何か」、「文献情報検索の基本」、「図書館と著作権」の4部構成とした。具体的には「図書館活用術とキャンパスライフ」では、図書館をイメージする読書を中心に、読書離れのもとで朝読を行っている図書館の例を取り上げ、読書には人間性を高める効果があること、著者の意図を捉え自己の経験と向き合いながら成長を促し、今後の人生に生かされることを話した。また、論理的な展開を通したものの見方、考え方のトレーニングとなること、読書が倫理観を形成するために役立つことを解説した。昨年まで学生からの希望がほとんどなかった購入希望申込みシステムについて案内した。「学術情報とは何か」では、誰もが関心をもつと考えられる医療・健康情報をテーマに、Quality of Lifeにおける保健・医療・福祉の現場、在宅介護が増加する中でユニバーサルデザインが重要となることを話した。また、自身が医療従事者、地域住民を対象に行った調査結果をもとに、臨床現場看護師・薬剤師は医療情報の探し方が不得手であること、文献データベースの検索における知識や技術が十分でないこと、また、一般市民はインターネットから医療・健康に関する情報を入手することが多いが入手情報に対する満足度が低いことなども説明した。次にインターネット情報と文献情報の違い、信頼できる情報源などを中心になぜ情報が必要なのか、「文献情報検索の基本」では、文献情報の探し方について

ノーベル医学・生理学賞の受賞者、山中伸弥教授の論文を例に文献の引用方法、レフリーシステム、EBM文献、情報の質の評価、文献情報の重要性を伝えた。「図書館と著作権」では、文献の複写、引用標記方法について解説した。最後に知識から知恵への転換として、学ぶ目的、プレゼンテーション、文章作成方法がなぜ役立つのか、社会で役立つ知識・情報の収集に図書館が有効であることを伝えた。最近の学生は、調べものをする際に自ら本を読まず、すぐに答えを求める傾向がみられる。またインターネットを利用して答えを探すことからレポートも何処かからの引用で同じものがみられる場合が多い。正確な情報とは何か、ということと情報の収集方法に対する理解を深めるために、またデザイン学部と看護学部の学生が学習意欲向上の動機づけとして共有できる学習に役立つ図書館活用法を意識しながら、具体的な事例をもとに構成した。



スタートアップ演習は、各学部の新入生ガイダンスの後に実施されている。従来の新入生ガイダンスで図書館は利用サービス・施設利用を中心に10分程度の説明を行ってきたが、平成24年度に学生を対象に行った図書館利用アンケートで特に要望の多かったWeb OPAC、文献情報検索の説明と演習を平成25年度から取り入れ、図書館ガイダンスとして90分実施することになった。図書館の利用法、PCを活用した情報源へのアプローチ（OPACで蔵書を探す、文献情報データベース、電子ジャーナルの使い方）の修得を目標にした。出席は任意で、講義の出席日数に影響しないことから、参加者数は学部によって全体の2割に満たない状況であった。それでもガイダンス終了後に実施したアンケートでは、参加した学生は文献データベース、電子ジャーナルなどの学術文献情報に一定の関心、理解を示していた。これらを踏まえてスタートアップ演習へ参画したわけであるが、学生が図書館を身近なものとして捉え、利用に繋がる企画であったと考えている。今後、学生の学習支援活動を充実させていくためには、事務組織、学部との連携をもち、教職協働で図書館が積極的に関わっていくことが重要と考えている。毎月開催される図書館運営会議において、図書館による学生の自主的学習力を向上させるために不可欠な学術文献情報の知識・技術の修得に向けた講義・演習を授業講義として位置付けること、また各学年の学生や研究生を対象に段階別プログラムを実施する提案を行った。

そして、学習・研究支援は在学中に限らず臨床現場の看護師に対しても必要とされており、その一つに札幌市立大学で実施しているものとして認定看護管理者制度サードレベルがある。そこでは臨床研究の際に役立つ図書館活用法について解説している。このような取組はまだ多くはなく、次に図書館が学外で開講した臨床現場の看護師に対して行ったプログラムの事例について触れる。

2. 地域格差のない医療情報提供のための薬剤師・看護師教育プログラム

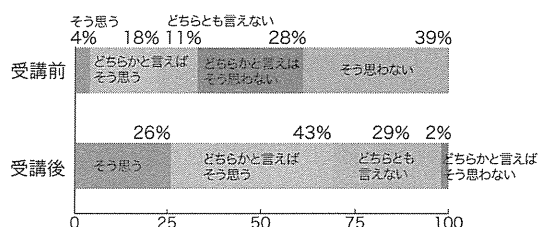
筆者の前職である北海道医療大学において企画した「地域格差のない医療情報提供のための薬剤師・看護師教育プログラム」⁸⁾は、平成20年度文部科学省社会人の学び直しニーズ対応推進プログラムとして行ったものである。当プログラムは筆者が北海道内の医療従事者の情報ニーズを調査^{9)~12)}した結果、とりわけ薬剤師、看護職が臨床現場で必要とする情報を自ら探すことが不得手であったことから、臨床現場のニーズを反映したプログラムを企画、実践したものである。

対象は臨床現場で働く薬剤師、看護師、広域な北海道

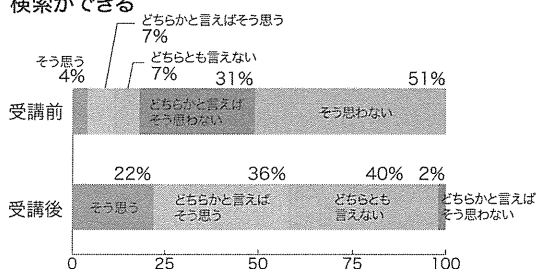
の特性に配慮し、札幌、北見会場の他、遠隔地から受講できるようDVD、e-learningを導入して行った。プログラムの目的、対象、プログラムの内容は以下のとおりである。

- ・目的：情報リテラシーおよび患者教育のためのコミュニケーション能力の向上
- ・対象：薬剤師・看護師 65名
- ・内容：基礎共通プログラム（コンピュータスキルプログラム、情報検索スキル向上プログラム、情報の質の評価スキル向上プログラム、患者教育スキル向上プログラム）および、専門分野別プログラム（生活習慣病・がん・感染症・メンタルヘルス）

●医中誌webがもつ特徴を理解し、検索ができる



●MEDLINE (PubMed) がもつ特徴を理解し、検索ができる



図書館員が担当した基礎共通プログラムの情報検索スキル向上プログラムはコンピュータスキルプログラムの次に実施した。医中誌Web、PubMedのデータベースの利用法を講義・演習形式で行った。一人一台のパソコンを利用し個別の質問に対応して進めた。質問は、キーワードの選定やヒットした文献の取り寄せに関することなど多岐に渡った。講師はヘルスサイエンス情報専門員上級の資格をもつ図書館員が担当した。受講前・受講後に実施したアンケート調査結果によると文献データベースの検索など、スキル習得を対象としたものの効果に大きく高い満足度が確認された。

このプログラムの実施により、臨床現場の医療従事者の情報探索活動や障壁となっていることを把握することができた。

3. 図書館の教育的役割について

これまで、高齢化を迎えた社会の看護職へのニーズの拡大に応える養成教育におけるコア・カリキュラム、また、学内外において看護職を支援する大学図書館の二つの事例を紹介した。

文部科学省は、大学図書館の整備について「変革する大学にあって求められる大学図書館像¹³⁾」の中で、「学習支援及び教育活動への直接の関与」を位置付けている。情報リテラシー教育は、大学図書館が主体となって取り組むことを求めており、カリキュラム開発や実施を教員と協同して行うだけでなく、図書館職員が教員を兼任するなどして、直接授業を担当することも視野に入れるべきだとしている。また、学修環境充実のための学術情報基盤の整備¹⁴⁾について、①コンテンツ、②学習空間、③人的支援を整備し、コンテンツへのアクセスと学術情報の活用を支援し、学生が主体的に課題解決に取り組む能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換の必要性と学生の主体的な学修基盤となる図書館の機能強化について触れている。しかし、教職協働を推進することが望ましいといわれて久しいが、実際には教員と事務職員である司書の隔たりは大きく、有機的連携には程遠い。この状況を打開するものとしては、初年次教育のための組織体制づくり¹⁵⁾のもとで教員との学術情報をベースとする信頼関係の構築が欠かせないと考えられる。図書館がもつ教育的機能が活用され、学内外の評価に繋げていく努力が必要とされる。看護教育の初年次教育・導入教育における図書館の果たす役割の可能性は大きい。今後、図書館には情報リテラシー教育などの授業と連携したマネジメントの他、①学習面、②生活面、③精神面、④スキル面、あらゆる側面から学生の能動的学修を支援するアクティビティ学習アドバイザーとして役割が期待される。

札幌市立大学において新入生ガイダンス、スタートアップ演習の他に図書館が教育に関わるものとして、Ⅲの1.で前述した学部、大学院研究科の要望に応じた講義、認定看護管理者教育課程サードレベルにおける文献情報分野の担当がある。「看護研究法特論系統的文献検索」の学修行動目標は下記の3点である。

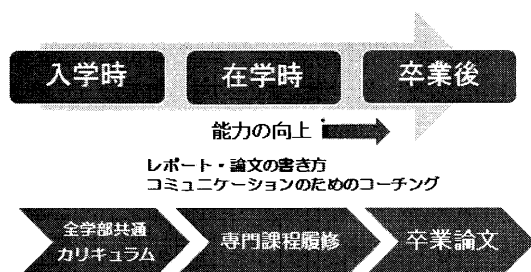
1. 研究プロセスにおける文献検索の意義が説明できる
2. 文献をコンピュータ検索で探せる
3. 検索した文献の整理と要約ができる

この講義演習では上記2の部分に関わり、研究テーマに基づくキーワードの選定などに対応している。

多くの図書館では正規職員の減員や予算縮減で余裕がない状況である。しかし、学内外に向け図書館の機能・

教育的役割を積極的に働きかけていくことが次世代の図書館の位置づけを確立することに繋がると考えられる。図書館員がマネジメント能力を高め、学内外の関係部署と連携調整をとり活動を推進していくことが求められる。情報の組織化と蓄積、電子ジャーナルの管理など従来の図書館業務も重要な業務である。加えて個々の図書館員が社会ニーズの変容を捉え、電子資料、コンピュータ、データベースに関わる知識や技術を高め、より高度で専門的な図書館情報サービスに繋げることが必要なのである。即ち、教育・臨床の現場から期待される情報専門職として自らの力を培い、キャリアアップに繋げていくことである。

アクティビティ学習アドバイザー



IV. おわりに

図書館員が教育に参加することは容易ではない。しかし、そのことの重要性を理解し積極的に大学に働きかけ行動していくことが重要である。看護などの医療系図書館員には、教員と協力して初年次教育などに関わることのできる一般的な幅広い教養、倫理観に加えて、専門的な知識や技術が求められる。情報専門職としての医療系図書館員の育成には専門職同様に継続教育が必要であり、さらに医療従事者との相互理解を深めるための意見交換が効果的であり、コミュニケーション能力を培わなければならない。そこで必要となるのは医療系図書館員の職能団体である日本看護図書館協会、NPO法人日本医学図書館協会、日本薬学図書館協議会との連携である。教育・研究における事業連携の推進を視野に入れ、医療系大学図書館員に必要な知識・技術をベースに、各々が主題の特性を生かしたプログラムを構築し、医療・福祉・

介護の現場で活躍する看護職を支援する図書館員の育成を目指していくことが期待される。

本稿は平成25年8月23日、名寄市立大学において開催された日本看護図書館協会2013年度第45会研究会「看護と全人教育－豊かな人間性を備えた医療人育成のために」に基づく講演内容をもとに加筆したものである。

参考文献

- 1) 野嶋佐由美ほか. 看護系大学におけるモデル・コア・カリキュラム導入に関する調査研究報告書2011.
- 2) 文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室. 大学における教育内容等の改革状況等について2013. http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/_icsFiles/afieldfile/2013/11/14/1341433_01.pdf [accessed 2014-01-11]
- 3) 山田礼子. 一年次(導入)教育の日米比較. 東京, 東信堂, 2005.
- 4) 山田礼子. 大学機関調査からみた日本における初年次教育の可能性と課題. 大学教育学会誌, 2007; 29: 22-28.
- 5) 山田礼子. 「学士課程教育」はどのような課題を提起しているのかー現状から課題へ. 大学教育学会誌, 2010; 32: 45-53.
- 6) 久司一葉. 看護専門学生の多様化と初年次教育. 仏教大学大学紀要, 2011: 39.
- 7) 札幌市立大学ホームページ. <http://www.scu.ac.jp/> [accessed 2014-01-11]
- 8) 平紀子. 地域格差のない医療情報提供のための薬剤師・看護師教育プログラム2009年度事業終了報告. 看護と情報, 2010; 17: 45-52.
- 9) 平紀子, 平博彦. 図書館機能を活用した大学の地域連携. 情報の科学と技術, 2009; 59: 505-512.
- 10) 平紀子, 三国久美. 保健師の情報ニーズと医療系大学図書館の役割. 医学図書館, 2007; 54: 166-171.
- 11) 平紀子. 薬剤師の情報ニーズと薬学系大学図書館における役割 (1). 薬学図書館, 2007; 52: 211-219.
- 12) 平紀子. 薬剤師の情報ニーズと薬学系大学における役割 (2). 薬学図書館, 2007; 52: 340-346.
- 13) 文部科学省. 大学図書館の整備についてー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー2012. http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1306126.htm [accessed 2014-01-11]
- 14) 文部科学省科学技術・学術審議会学術文科会学術情報委員会. 学修環境充実のための学術情報基盤の整備について2013. http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/08/1338778.htm [accessed 2014-01-11]
- 15) 山田礼子. 初年次教育のための組織体制づくり. 大学教育学会誌, 2007; 29.